

「留袖着付」部門／出場規定

(A) 大会概要

- (1) 日 時 2019年 10月 8日(火) 選手受付時間 午前 10:30 【※1】
- (2) 会 場 国際文化理容美容専門学校国分寺校 (JR・私鉄「国分寺駅」徒歩 2分) 【※2】
- (3) 当日の ▶ 10:30～11:00 受付およびモデル・衣裳の抽選【※3】
タイムテーブル ▶ 11:00～11:20 出場選手への諸注意、競技説明、その他
(予定) ▶ 11:20～12:30 ① 競技準備 (約 60分/競技のための準備を行なう)【※4】
▶ 12:45～13:00 ② 競技(1) (15分/補整・長襦袢)
▶ 13:25～ ③ 競技(2) (20分/着物・帯結び) + 審査・ウォーキング
▶ 14:30～ 写真撮影【※5】
▶ 17:00～17:30 結果発表および表彰式
- 【※1】 受付時間および当日のタイムテーブルは、変更となる場合があります
- 【※2】 会場地図は別途添付
- 【※3】 モデル・衣裳は受付時の抽選で決定する。なお、選手には主催者側にて軽食・飲み物を用意
- 【※4】 モデル・衣裳の確認。着付のための下準備 (補整具、長襦袢の衿縫い、小物・用具類の準備、帯をたたむなど)
- 【※5】 審査終了後、別会場にて、写真撮影を行う

(B) 申込規定

- (1) 出場料 35,000 円
- (2) 出場券 出場料の入金確認次第、送付【※6】
- (3) 出場資格 ● 不問
● 年齢制限なし。性別、国籍は問わない
- (4) その他 原則として、出場料の払い戻しは行わない
- 【※6】 出場券は当日必ず持参のこと。紛失・破損した場合はすみやかに申し出ること。なお、名前、所属の表記に誤りや不備がある場合は、出場券を再発行するのでお知らせ下さい

(C) 競技概要

- (1) 課 題 ミセスの第一礼装としての黒留袖姿。帯結びは二重大鼓とする
- (2) 審査項目 ● 黒留袖にふさわしい品格のある装いであること
● モデルに似合い、トータルでバランスがとれた着付、帯結び
● 動きやすく、着くずれしにくい着付であること
● 技術者としてのマナー
- (3) 競技時間 ① 競技準備: 60分以上 (衣裳、モデルの確認。競技のための準備を行う)
② 競技(1): 15分 (補整・長襦袢)
③ 競技(2): 20分 (着物・帯結び)
- (4) 主催者が ● モデル (身長 160cm 前後、標準体型、ヘア・メイク済)【※7】
用意する物 ● 留袖一式【※8】
○ 黒留袖 (比翼衿つき)
○ 帯 (六通袋帯)
○ 長襦袢 (関西式棒衿仕立て [衿巾 5.5cm] に半衿 [白] つき)【※9】
○ 帯揚げ (綸子 [白])
○ 帯メ (平打 [白])
○ 扇子
○ 草履
● 和装用の肌着・裾よけ [二部式]
● 足袋
● 敷物 (120cm × 180cm)
- 【※7】 受付時の抽選で決定
- 【※8】 モデルと衣裳はセット
- 【※9】 長襦袢の衿は、衿縫いの必要はないが、一旦ほどいて衿芯を入れてもよい。衿芯 (衿紙)の種類、入れ方は自由。衿芯および衿紙用の奉書紙 (大小)の当日購入も可能
- (5) 出場選手が ● 出場券 (ゼッケン引換証)
用意する物 ● 着付前にモデルが着用するガウンまたは浴衣・帯など (控室で使用)
● 着付に使用する小物・用具類 (腰紐、仮紐・ゴム紐類、伊達メ、帯枕、帯板、補整用品 [タオル、コットン、ガーゼなど]、衿の中に入れる衿芯 [既成の衿芯 (プラスチック、メッシュ等) や奉書紙]、クリップ、針と糸など)【※10】
- 【※10】 不足品 (着付用小物、ヘアスタイリング剤、化粧品、ヘア小物、ヘアアクセサリ等)があれば、競技準備中に、会場内の出店コマにて購入可能

※使用する用具、道具については、「(D) 競技規定」に記載の、使用を禁止する用具、道具類以外は、基本的に制約はなく、自由とする

(D)「留袖着付」部門／競技規定

(1) 競技全体 【選手権当日全体】

- ① 当日は、主催スタッフの指示に従うこと
- ② スタッフの指示、諸注意を守らない場合、他の技術者に迷惑となる行為がある場合は、退場させることもある
- ③ 競技に不必要な私語は禁止する
- ④ 選手以外の競技控え室への入室を禁止する
- ⑤ 競技時間の超過、競技終了後の修正は、減点の対象とする
- ⑥ 不足品があれば、競技準備中に、会場内の出店コマにて購入可能
- ⑦ 競技準備中、長襦袢や着物をモデルに着せてみても構わない（時間があれば練習してもよい）
- ⑧ ヘアスタイルは審査対象外（モデルのヘアメイクは事前に主催者側で行う。ただし、モデルに髪飾りを付けたり、ヘア・メイクの手直しをするのは自由。髪飾りが必要な場合は選手が用意すること）

(2) 競技内容 ▼使用を禁止または指定する用具、道具類

- ① 着物、帯結び、帯回りの装飾品の使用は不可（着物のアクセサリ、帯飾り、帯留めなど）
- ② 既製の台衿、巡礼衿の使用は不可
- ③ アイロンの使用は不可
- ④ 抽選で決定した衣裳（黒留袖 [比翼衿つき]、六通袋帯、帯揚げ、帯メ、扇子、草履）を使用すること
- ⑤ 肌着・裾よけ、足袋、長襦袢は、主催者が用意したものをを使用すること

▼補整について

- ① 補整方法は自由。補整の種類（タオル、コットン、ガーゼ等）や数量に制限はなく、また、してもしなくてもよい
- ② 補整具の準備は、競技準備中に行ってよい。ただし競技(1)開始時点で、モデルに補整がしてあってはいけない
- ③ 市販、既製の補整具の使用可

▼長襦袢について

- ① 長襦袢は主催者が用意したもの（関西式棒衿仕立て [衿巾5.5cm] に半衿 [白] つき）を使用する
- ② 長襦袢の衿は、衿綴じの必要はなく、衿先から衿芯（プラスチックの衿芯、奉書紙など）を差し込むことが可能。競技準備中に三つ襟部分を一旦ほどいて衿芯（衿紙）を入れてもよい
- ③ 衿芯（衿紙）の種類、入れ方は自由。衿芯、衿紙用の奉書紙（大・小）の当日購入も可
- ④ 既製の台衿、巡礼衿の使用は不可
- ⑤ 長襦袢に、紐を付けてはいけない（長襦袢に紐を直接縫い付ける、紐を通す輪を縫い付けるなど）

▼着付に使用する紐、道具類

- ① 紐、道具類の種類、使用数に制限はない。きものベルト（コーリンベルト）、マジックベルトなどの使用も自由
- ② 衣裳を傷めるような紐、道具類の使用は不可
- ③ 着付や帯結びで、仮紐や三重ゴム紐（四重、五重ゴム紐）などを使用してもよい
- ④ 使用する腰紐や伊達メなどの色の指定はない（白でなくてもよい）

▼帯・帯小物について

- ① 帯、帯回りの小物類（帯揚げ、帯メ、扇子）は主催者が用意したものを使用する
- ② 帯結びは二重太鼓。なお、競技準備中に、帯を胴に廻しやすいようにたたんでおいてよい
- ③ 帯飾り、帯留めなどの装飾品をつけてはいけない

(D)「留袖着付」部門／競技規定

(3) モデル

▼モデルについて

- ① モデルは主催者側で用意し、当日の抽選で決定する
- ② モデルの肌着、裾よけ、足袋は主催者が用意
- ③ モデルのヘア・メイクは事前に主催者側で行うが、モデルに髪飾りをつけたり、ヘア・メイクの手直しを行うのは自由。
ただし、髪飾りが必要な場合は選手が用意すること
- ④ 控室でモデルが着用するガウンまたは浴衣・帯をご持参下さい。
控室と化粧室の移動時にも使用します。下着姿でのフロア移動はできません
- ⑤ モデルがステージ上で着用する布製のクロス（肩から足首までが隠れる長さのもの）は主催者側で用意する。
ただし、控室では使用できません

(4) 服装

▼当日の服装について

- ① 服装は自由（着物も可）ですが、礼装のお仕度をする事、技術者であること、ステージ上で競技を行うことを考慮し、その場にふさわしい装いを心がけて下さい。カジュアルな服装や、作業上好ましくないミニスカート、短パン、Gパン、素足での作業は控えて下さい
- ② 靴は着脱しやすいタイプをご用意下さい（ブーツ、スニーカーなど着脱しにくいもの、またカジュアルなサンダルなどは不可）。室内用の選手用スリッパは、主催者側で用意します

(5) その他

▼その他

- ① 競技に使用する荷物は、できるだけ当日ご持参ください。
諸事情により、事前預かりを希望される場合は、国際文化着付技術選手権実行委員会までお問合せ下さい
- ② 主催者が用意した衣裳類については、使用后、主催スタッフの指示に従い、所定の場所に返却して下さい。
その際、必ずスタッフのチェックを受けて下さい
- ③ 競技・審査終了後、写場にて写真撮影を行います（写真は後日郵送します）。
詳細は当日、説明しますが、係員の指示に従い、すみやかに行動して下さい

【お申込み・お問合せ】

国際文化着付技術選手権実行委員会

〒150-0045 東京都渋谷区神泉町5-3 学国際文化学園内

☎ 03-3462-1448 fax03-3770-8745